

## 実践と継続

上うえ廣ひろ榮えい治じ

今年も一年が終わろうとしています。皆さんにとっては、どのような年であったでしょうか。もちろん、皆さんは日々、倫理の実践を重ねてこられたことと思います。では、その実践じっせんじょうり場裡において、あなたは随所に主となることができたでしょうか。その実践は創意工夫に満ちたものであったでしょうか。それが何であれ、希望や目標を達成し、喜びに満ちた年であったでしょうか。我も人ももの仕合わせに向かって一歩前進できたでしょうか。

一年の終わりにあたって、改めて実践のあり方について考えます。

今年の八月十五日、マーリンズのイチロー選手が大リーグ安打数で歴代二位のタイ・カップの記録に並び、日米通算四一九一本目の安打を放ちました。ピート・ローズがもつ安打数一位の記録を塗り替える日も近いだろうといわれています。

イチロー選手は、十年ほど前にも大リーグ・シーズン最多安打記録を達成しています。そのとき彼は、一番大切なのは、準備をしつかりして、ベストを尽くすかどうかだ。それさえできていれば、結果がどうであれ満足できる、とコメントしました。今回の偉業は、その後もこの言葉どおりの準備とプレーをし続

けた結果でしょう。

そんなイチロー選手について、かつて私は、本誌で「イチローに見る実践力」と題して、会友の皆さんは彼のような気持ちと実践力をもって、日々倫理と向き合っているかどうか、お尋ねしました。

お忘れの方も多いと思いますので、十年前に書いたことを簡単に要約します。

——イチローはホームランを打つてもガッツポーズをすることはなく、三振しても悔しさを表すこともない。たとえ死球を受けても冷静さを失うようなこともない。「人の悪」も、「己の善」も語らず、態度にも表わさない。常にベストを尽くしているから結果を思い煩うこともなく、「心の無駄」がない……。

あれから十年、所属するチームは変わっても、彼の努力とプレーはブレることなく続けられ、ついに大記録到達が見えるところまでできたのです。

かつてイチロー選手は、自分が天才といわれることについて、「努力せずに何かできるようになる人のことを天才というのなら、ぼくはそうじゃない。努力した結果、何かができるようになる人のことを天才というのなら、ぼくはそうだと思う。そして、自分ではできることをとことんやってきたこと、何よりそれを継続できたことに誇りを持っている」と語っています。

将棋の羽生善治名人も、「同じ情熱、気力、モチベーションをもって継続してやるのは非常に大変なことであり、それこそが才能だ」と自身の著書で述べています。彼らのように頂点を極めた人でも、さらなる上を目指して努力しているのです。努力を継続しているからこそ、今の彼らがあるのです。

その羽生名人と同じ将棋界で、「継続の力」を改めて見せつけた出来事がありました。今年の四月、アマチュア将棋界で活躍していた四十一歳の介護士が、難関のプロ編入試験に合格し、晴れてプロ棋士とな

ったのです。今泉健司いまいずみけんじさんです。プロ棋士になるまでに要した努力の時間は、実に二十七年間でした。

今泉さんは中学生のときからプロの棋士を目指して、日本将棋連盟がプロ棋士を養成する奨励会に所属していましたが、二十六歳までに四段に到達できない場合は退会という規定により、奨励会を去らなければなりませんでした。それまで将棋漬けだった今泉さんは、将棋の外の世界のこと何もしりません。学歴は中学卒で、将棋以外で得意なことといえば大きな声で挨拶することだけだったといえます。それでも食べていかなければなりません。アルバイトをやったり、レストランチェーンで働いたりしながらも、将棋を諦めるあきらことはありませんでした。

プロ棋士はおよそ百五十人、アマチュアの将棋愛好家は約一〇〇〇万人といわれ、その主な大会だけでも八つあります。今泉さんは、このアマチュアの世界でしだいに頭角とうかくを現していきます。

奨励会を去った七年後、アマチュアの大会で優勝した今泉さんは、プロ編入試験を受けられる資格を得て、プロへの二度目の挑戦をしました。が、あえなく敗れてしまいます。その後、三十六歳のとき、地元じゆんの福山に戻って始めたのが介護の仕事でした。「あの五年間の経験が、自分に足りないものを埋めてくれた」と、今泉さんは述懐します。

介護の仕事は、介護を受ける人たちに寄り添う心が欠かせません。今泉さんは、この仕事を通して、自分の感情をコントロールする術すべを学びました。自分が変われば、周囲も変わることを知りました。人は多くの人のお蔭で生かされていることにも気づきました。自分は仕合わせだ、ついているなど思っていると、事態はよいほうに展開していく。結局は自分次第だと気づきました。

こうした心境の変化は将棋にも劇的に現れて、数々のタイトルを獲得していきました。プロ棋士合格

は、こうしてもたらされた結果だったのです。

今泉さんは自分を変えることで、災いを転じて福としたのです。目標に向かって努力を継続してきたからこそ、目標を達成できたのです。しかし、今泉さんの将棋人生はむしろこれからです。いまでも今泉さんは、さらに上を目指して努力を続けています。

「継続こそ力」で思い出す一句があります。

たゆまざる 歩み恐ろしカタツムリ

長崎の平和祈念像を制作した彫刻家、北村西望さんきたむらせいぼう（一八八四—一九八七）の句です。北村さんは百歳を超えてもなお創作意欲の衰えなかつた人ですが、自分は作品を創るのに人より何倍も時間がかかるので、「いい仕事をするには長生きするしかない」が口癖だったといえます。

平和祈念像を創ったときも四年間を要しました。完成に近づいたある日、北村さんは仕事を終えて帰り支度をしていると、像の足元にカタツムリがいることに気がつきます。翌朝、また仕事にかかろうとすると、像の下から上へと一本の筋が、まるで銀の糸のように朝日にキラキラ輝いていました。その先にはあのカタツムリがいたのです。高さ九メートル以上もある像の上まで一晩かけて登ったことに北村さんは感動し、この句が生まれたのです。カタツムリの持続力に驚嘆して以来、北村さんはカタツムリを生涯の師としたといえます。

たしかに「継続こそ力」です。しかし、ただ継続すればいい、ただ実践し続ければいいというものではありません。自ら考え、より高みを目指して努力すること。その努力を継続すること。それが大切なのです。倫理の実践もまた然りしかです。